

(資料 1)

平成 23 年度 事 業 報 告

(2011 年 4 月 1 日～2012 年 3 月 31 日)

本年度における会員現況と主な事業内容を以下項目別に報告する。

1. 会 員 状 況

会員種別	平成 23 年度			参 考	
	2011. 4. 1 現在数 (A)	2012. 3. 31 現在数 (B)	年度内の増減 (B-A)	2011. 3. 31 現在数 (C)	前年度末 との対比 (B-C)
名誉会員	19	21	2	19	2
終身会員	108	102	△6	95	7
正 会 員	3,333	3,259	△74	3,287	△28
学生会員	812	839	27	843	△4
賛助会員	198 社 (297 口)	191 社 (283 口)	△7 社 (△14 口)	197 社 (294 口)	△6 社 (△11 口)
特殊会員	95 社 (108 口)	93 社 (106 口)	△2 社 (△2 口)	95 社 (108 口)	△2 社 (△2 口)

2. 定款・規則等の制定・改正

- (1) 独創研究奨励賞板倉記念選定手続の改正 (2011. 8. 25)
(2) 編集委員会規則の改正 (2011. 11. 28)
(3) 電子的手段による情報発信に関する運用指針の制定 (2012. 1. 23)

3. 機 関 誌 の 刊 行

- (1) 日本音響学会誌
本期間は毎月 1 日 (1 号は 12 月 25 日) を発行日とし、次の 12 冊を刊行した。

67 巻 4 号～68 巻 3 号 (2011 年 4 月～2012 年 3 月)

	巻		67 巻								68 巻			計	
	号		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2		3
	本文ページ		38	38	40	50	76	60	54	66	38	62	50	56	628
主 な 論 文 ・ 記 事	巻頭言				2							2			4
	音叉		2			2			2						6
	論文		7 (1)	8 (1)		10 (1)	10 (1)	10 (1)	23 (2)	21 (2)	9 (1)	16 (2)	23 (2)	8 (1)	145 (15)
	技術報告				12 (1)		8 (1)	7 (1)							27 (3)
	寄書		3 (1)								2 (1)				5 (2)
	特別講演							7 (1)						6 (1)	13 (2)
	解説 (小特集を含む)		19 (3)	25 (5)	18 (3)	31 (6)	17 (3)	31 (6)	18 (3)	36 (6)	17 (3)	36 (6)	18 (3)	33 (7)	299 (54)
会議報告 (シンポジウム報告)								6 (2)						6 (2)	

主な論文記事	連載企画	2 (1)		3 (1)	2 (1)			2 (1)	2 (1)	2 (1)		2 (1)		15 (7)	
	研究発表会報告					1						1		2	
	選奨記事・紹介記事					12								12	
	書評					1			1				1	3	
	研究会発表論文一覧					22								22	
	コーヒーブレーク	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24	
	67巻総目次										3			3	
	AST目次											2		2	4
	AST abstract											2		2	4
	学会記事等	2	2	2	2	2	2		3	2	1	3	1	22	
	投稿規定											17		17	
編集後記	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12		
会告	9	25	29	12	19	65	25	25	19	11	56	13	308		
広告	9	11	9	11	11	11	9	13	7	11	9	13	124		
発行部数	5000	5200	5000	4900	4900	4900	4900	4900	4900	4900	4900	4900	59300		
小特集タイトル		※1		※2		※3		※4		※5		※6			

注 1) 欄中の () 内数値は編数。

2) 会告の内容は、研究会開催案内、音響関係国内並びに国際会議、その他周知記事である。

※1 超音波暴露に関する研究の動向

2 音響分野で活用される時間領域有限差分(FDTD)法

3 音楽演奏者の動作解析

4 音場再生技術の研究動向

5 音のデザイン—感性に訴える音が豊かな社会を生み出す—

6 携帯情報機器における音響技術

(2) 英文論文誌 Acoustical Science and Technology

本期間は、2011年5月、7月、9月、11月、2012年1月、3月の各1日を発行日とし次の6冊を刊行した。なお、2012年1月発行分からオンラインジャーナルとした

Vol. 32 No. 3~Vol. 33 No. 2 (2011年5月~2012年3月)

Vol.		Vol. 32				Vol. 33		計
No.		3	4	5	6	1	2	
本文ページ		40	36	68	50	76	58	328
主な論文・記事	Paper	17 (2)	19 (3)	27 (3)	25 (4)	46 (5)	29 (3)	163 (20)
	Technical Report			15 (2)				15 (2)
	Acoustical Letter	18 (5)	14 (4)	16 (4)	15 (4)	20 (5)	23 (8)	106 (30)
	Foreword							
	Invited Review			6 (1)		5 (1)		6 (2)
	Review							
	Short Note	2 (1)						2 (1)
	和文誌英文目次	1	1	1	2	2	2	9
	和文誌論文等内容梗概	1	1	2	2	1	2	9
	Short Essay					2	1	3
	Vol. 32 総目次				5			5
Online journal化	1	1	1	1			4	
発行部数		4950	4850	4850	4850	50	50	19600
小特集タイトル								

注) 欄中の () 内数値は編数。

- (3) 科学技術振興機構が主催する電子ジャーナル共同利用センター (J-STAGE) のサイト (URL <http://www.jstage.jst.go.jp/browse/ast/-char/en>) で、引き続いて Acoustical Science and Technology 誌 (AST 誌) を公開した。

4. 研究発表会の開催

- (1) 春季研究発表会は、2011年3月9日、10日、11日の3日間、早稲田大学西早稲田キャンパスを会場として開催した。参加者実数は、1485名である。

なお、学生並びに新たに研究発表会に参加した方を対象とするビギナーズセミナー及び新人盛会を開催した。

スペシャルセッションは11件、「脳はどのようにして聴覚の時空間体制化を行うか」、「音楽と楽器の相互作用 II - 歴史的視点と同時代的視点から」、「音環境の総合的なマネジメントに向けて」、「エポックメイキングな論文でたどる建築音響の発展」、「アコースティックイメージングの現状と展望」、「日常生活環境下における音声聴取とその評価」、「熱音響現象の物理」、「創立75周年企画「原点回帰へ」」、「音のデザイナー感性に訴える音が付加価値を生み出す」、「超音波パワー応用の現状と将来」、「人間の聴覚情報処理過程と音声認識技術」で実施した。

開催3日目の3月11日午後に発生した東日本大震災のため、その後の発表を中止する措置をとった。このために講演できなかった発表は32件であった。これらの発表については、春季研究発表会で講演発表が実施されたことと見なすこととしたほか、希望者には、秋季研究発表会で同一内容の講演発表ができることとする対応を行ったところ、4件の申し出があった。

- (2) 秋季研究発表会は、2011年9月20日、21日、22日の3日間、島根大学松江キャンパスを会場として開催した。参加者実数は、930名である。

なお、学生並びに新たに研究発表会に参加した方を対象とするビギナーズセミナーを開催した。

スペシャルセッションは7件、「音声における声質の分析と生成」、「聴覚初期過程の情報処理」、「テレビゲームの音響と音楽」、「建築空間における音環境評価に関する最近の動向と将来の可能性」、「創立75周年企画「原点回帰へ」」、「製品音のデザイン」、「音のシミュレーション-音場解析・音響画像解析手法とその応用-「最近の聞こえ支援システム技術とその展開」で実施した。

- (3) 春季並びに秋季の発表分野、講演件数及び特別講演は次表のとおりである。

分野別		春季	秋季
講演件数	音声 A	86	77
	音声 B	91	78
	聴覚/聴覚・音声	50	59
	電気音響	130	103
	音楽音響	44	35
	騒音・振動	45	39
	建築音響	52	63
	超音波/水中音響	87	63
	アコースティック・イメージング	23	8
	音響教育	3	6
	音支援 (音バリアフリー)	14	3
	熱音響技術	6	6
	学術委員会 (研究会横断) 「創立75周年企画「原点回帰へ」」	5	4
	音のデザイン 「音のデザイナー感性に訴える音が付加価値を生み出す」	14	
分野横断 SS 「超音波パワー応用の現状と将来」	9		

講演 件数	分野横断 SS「人間の聴覚情報処理過程と音声認識技術」	4	
	音のデザイン「製品音のデザイン」		8
	分野横断 SS「音のシミュレーションー音場解析・音響画像解析手法とその応用ー」		15
	分野横断 SS「最近の聞こえ支援システム技術とその展開」		8
計		663	575

特別 講演	演 題	音 今昔	宍道湖は残った
	講 師	早稲田大学 白井 克彦 氏	財団法人 宍道湖・中海汽水湖研究所理事長 保母 武彦 氏

5. 研究会の開催

(1) 本年度に実施した各研究会の活動概要は次表のとおりである。

研究会名	委員長 (敬称略)	開催回数	発表件数	備考
超音波	金井 浩	11	115	アコースティックイメージング, 音響化学研究会との合同開催の分を含む
騒音・振動	尾本 章	10	58	建築音響研究会, 音バリアフリー, 音のデザイン調査研究委員会都の合同開催分の含む
電気音響	三好 正人	9	134	音声, 音楽音響, 建築音響, 聴覚研究会との合同開催の分を含む
音声	速水 悟	8	188	電気音響, 聴覚研究会, 音響教育調査研究委員会との合同開催の分を含む
聴覚	津崎 実	9	138	音声, 電気音響, 音楽音響研究会との合同開催の分を含む
建築音響	阪上 公博	10	57	電気音響研究会, 音バリアフリー調査研究委員会との合同開催分を含む
音楽音響	西口 磯春	8	79	聴覚, 電気音響研究会との合同開催の分を含む
音響化学	酒井 啓司	1	19	音波の物性と化学討論会(超音波研究会と共催)
アコースティックイメージング	蜂屋 弘之	5	43	超音波研究会との合同開催の分を含む
合計		72	842	

(2) 騒音・振動, 聴覚, 建築音響及び音楽音響研究会資料の年間購読の請求事務は学会事務局で実施した。

6. 国際交流

(1) 国際会議の開催・準備等

ア. 2011年9月4日から7日までの間, 大阪国際会議場(大阪市)で開催された第40回国際騒音制御工学会議(INTER-NOISE 2011)に共催した。なお, 同会議は, 860件の講演発表があり, 40カ国から953名の参加登録者があった。

イ. 2012年5月21日から24日の間, 早稲田大学国際会議場(東京都)において共催する第19回非線形音響国際シンポジウム(ISNA 19)の準備等に協力した。なお, 同会議は, 当初2011年8月1日から4日に開催予定であったが, 震災の影響により延期されたものである。

ウ. 2014年に奈良で開催する第10回公衆衛生問題としての騒音に関する国際会議に協力する。

エ. 米国音響学会から2016年に第5回日米ジョイントミーティングをハワイで開催したい旨の提案があり、これを受諾した。

オ. 2014年9月7日から4日間、ポーランド共和国クラコウ市で開催する第7回 Forum Acusticum にポーランド音響学会とスペシャルセッションを共催して協力する。

(2) 当学会が加盟団体となっている国際音響学会(ICA), 国際騒音制御工学会(I-INCE)の総会等に出席し, その活動に協力した。また, 西太平洋地区音響学会(WESPAC)に協力した。

7. 音響規格の調査・作成

(1) 当学会で原案作成を行った日本工業規格(JIS)に関して5年ごとの見直し作業を行った。

(2) 音響に関する国際規格 (ISO/TC 43, 同/SC1, 同/SC2, 同/SC3 及び IEC/TC29 関係) の審議を日本規格協会から委託され, それぞれの専門委員会 (橘 秀樹委員長 [ISO], 佐藤宗純委員長 [IEC]) において審議し, 結果をとりまとめて報告した。

8. 調査研究委員会の活動

(1) 道路交通騒音予測手法の調査研究

(株)高速道路総合技術研究所との共同研究により, 「道路交通騒音の予測手法及び対策手法の研究」を実施した。道路交通騒音調査研究委員会 (坂本慎一委員長) が作業を実施し, その成果を報告した。

(2) 音響教育に関する調査研究

音響教育調査研究委員会 (佐藤史明委員長) において, 音響教育に関する現状の調査研究及び将来の音響教育のあり方等について審議を行った。

(3) 音バリアフリーに関する調査研究

音バリアフリー調査研究委員会 (白石君男委員長) において, 聴覚障害者のための会話システムの研究, デバイスの研究・開発・実用化及び普及を目的とした活動を行った。また, 2011年春季研究発表会において, 「日常生活環境下における音声聴取とその効果」, 2011年秋季研究発表会において, 「最近の聞こえ支援システム技術とその展開」をテーマとするスペシャルセッションを実施した。

(4) 音と脳科学に関する調査研究

音と脳科学調査研究委員会 (本田 学委員長) において, 人と音と脳の関わりについての調査研究を実施した。

(5) 熱音響技術に関する調査研究

熱音響技術調査研究委員会 (渡辺好章委員長) において, 既存のエネルギー変換システムが抱える廃熱の利用を目的とする調査研究を実施した。また, 2011年春季研究発表会において, 「熱音響現象の物理」をテーマとするスペシャルセッションを実施した。

(6) 音のデザインに関する調査研究

音のデザイン調査研究委員会 (岩宮眞一郎委員長) において, 製品音, サイン音, サウンドスケープ, 音環境等の音のデザインについて, 包括的に調査研究を行い, 音のデザインの必要性, 可能性, 将来性を発信することを目的とする活動を実施した。また, 2011年春季研究発表会において, 「音のデザインー感性に訴える音が付加価値を生み出すー」, 2011年秋季研究発表会において, 「製品音のデザイン」をテーマとするスペシャルセッションを実施した。

9. 選 奨

(1) 功 績 賞

音響に関する学術又は関連事業に対し, 特別の功績があると認められる方に贈られるもので, 第34回功績賞受賞者は, 板橋秀一, 市川 熹, 福留公利の3氏に決定した。なお, 賞の贈呈は通常総会の際に行う。

(2) 佐藤論文賞

音響学に関し学術上及び技術上貢献するところが大きい研究業績を本学会誌に発表した方に贈られるもので、学会誌 65 巻 1 号～12 号、66 巻 1 号～12 号並びに AST 誌 Vol. 30 No. 1～No. 6, Vol. 31 No. 1～No. 6 に掲載された論文中から優秀な論文を選び、2012 年春季研究発表会選奨会場(2012 年 3 月 14 日)で本賞を贈呈した。

第 52 回佐藤論文賞受賞論文(敬称略)

- 佐藤 逸人・森本 政之・小吹 佳織* (神戸大)

「住宅の居室における残響音が会話に与える影響」日本音響学会誌 66 巻 11 号

※ 現在、(株)大気社所属

- 西村 明・小泉 宣夫 (東京情報大)

「Measurement of sampling jitter in analog-to-digital and digital-to-analog converters using analytic signals」Acoustical Science and Technology 誌 31 巻 02 号

(3) 環境音響研究賞

環境音響学の発展に貢献した、主として建築音響分野又は騒音分野に関連する一連の研究を対象とするもので、会員から推薦のあった候補者から優秀な者を選び、2012 年春季研究発表会選奨会場(2012 年 3 月 14 日)で本賞を贈呈した。

第 3 回環境音響研究賞受賞者(敬称略)

- 河井 康人 (関西大学)

「境界積分方程式による建築の音場予測に関する研究」

- 阪上 公博 (神戸大学)

「次世代吸音材料を用いた吸音構造に関する研究」

(4) 独創研究奨励賞 板倉記念

音声処理に関する独創的な研究を行った若手会員の方に贈られるもので、会員から推薦のあった候補者から優秀な者を選び、2012 年春季研究発表会選奨会場(2012 年 3 月 14 日)で本賞を贈呈した。

第 6 回独創研究奨励賞 板倉記念 受賞者(敬称略)

- 森勢 将雅 (立命館大学)

「多様な声質制御を実現する高品質音声分析合成システムの研究開発」

- 李 軍鋒 (中国科学院声学研究所)

「マイクロホンアレイとポストフィルタを併用した音声強調処理手法の研究」

(5) 栗屋 潔学術奨励賞

有為と認められる新進の研究・技術者の方に贈られるもので、2011 年春季研究発表会並びに秋季研究発表会の講演者のうちの本賞受賞対象者から優秀な者を選び、2011 年秋季研究発表会選奨会場(2011 年 9 月 21 日)及び 2012 年春季研究発表会選奨会場(2012 年 3 月 14 日)でそれぞれ本賞を贈呈した。

第 30 回栗屋 潔学術奨励賞受賞者(敬称略/2011 年春季研究発表会)

- 伊藤 弘章 (NTT サイバースペース研究所)

「直線状スピーカアレーを用いたエバネッセント波再生手法について」

- 小山 翔一 (NTT サイバースペース研究所)

「角度スペクトル微分を用いた波面合成法の実音場評価」

- 安井 希子 (龍谷大学)

「AM 音の振幅形状が Roughness 知覚を変えるのか？」

第 31 回栗屋 潔学術奨励賞受賞者(敬称略/2011 年秋季研究発表会)

- 木下 慶介 (NTT コミュニケーション科学基礎研究所)

「Uncertainty decoding 技術に基づく事例モデルベース 1ch 残響除去」

- 齋藤 大輔 (東京大学)

「話者空間のテンソル表現を用いた一対多声質変換」

○藤原 舞 (ヤマハ(株))

「薬局におけるサウンドマスキング評価方法の実験的検討」

○安 啓一 (上智大学)

「加齢に伴う無声摩擦音・破擦音識別に対する cue trading における重みの変化
—子音の立ち上がり時間と先行する無音区間長に着目して—」

(6) 学生優秀発表賞

春季又は秋季研究発表会において優秀な発表を行った学生会員に贈られるもので、2011年
春季研究発表会並びに秋季研究発表会の講演者のうちの本賞受賞対象者から優秀な者を選
び、2011年秋季研究発表会選奨会場(2011年9月21日)及び2012年春季研究発表会選奨会
場(2012年3月14日)でそれぞれ本賞を贈呈した。

第3回学生優秀発表賞受賞者 (敬称略/2011年春季研究発表会)

赤桐 隼人(和歌山大学), 伊藤 信貴(東京大学), 笠井 亮佑(同志社大学),
鹿住 恭介(名古屋工業大学), 久保田 雄(東京工業大学), 坂本 順(中央大学),
塩田 さやか(名古屋工業大学), 獅子谷 卓(東北大学), 中島 麻友子(新潟大学),
古根 史雅(東北大学), 干場 功太郎(東京工業大学),
Pontes Josafa de Jesus Aguiar(東京工業大学), 前澤 陽(京都大学),
村上 惣一(東京工業大学), 茂木 沙織(埼玉大学), 森河内 淳(同志社大学),
吉田 憲弘(静岡大学), 李 容子(京都大学)

第4回学生優秀発表賞受賞者 (敬称略/2011年秋季研究発表会)

井熊 佳祐(防衛大学校), 鰐原 孝康(九州大学), 遠藤 辰徳(上智大学),
小樽 亮太(早稲田大学), 小林 知尋(千葉工業大学), 近藤 秀一(東京工業大学),
鈴木 雅之(東京大学), 高野 哲朗(九州大学), 俵 直弘(早稲田大学),
千々岩 圭吾(東京大学), 邱 惟(東京工業大学), 中島 ちひろ(明治大学),
中村 謙太(東京農工大学), 橋本 泰治(筑波大学), 間瀬 絢美(名古屋工業大学),
松田 直大(同志社大学), 宮崎 亮一(奈良先端科学技術大学院大学)

(7) 技術開発賞

音響に関する工学技術の進歩発展に特に貢献したと認められる本会賛助会員の代表者、賛
助会員所属の個人、グループに贈られるもので、公募により推薦された候補の中から優秀な
ものを選んだ。なお、賞の贈呈は通常総会の際に行う。

第20回技術開発賞受賞者 (敬称略)

○積水ハウス(株)総合住宅研究所

「高遮音床システム「SHAIDD55」

永松 英夫 (積水ハウス(株)総合住宅研究所)

○戸田建設(株)技術研究所

「アクティブノイズコントロール(ANC)を用いた建設機械騒音の低減」

松岡明彦, 小林正明, 鈴木信也, 半田雅俊, 柳楽 毅 (戸田建設(株))

○(株)富士通研究所

「携帯電話向けマイクアレイ「スーパーダブルマイク」の実用化」

早川昭二, 松尾直司, 松本智佳子 ((株)富士通研究所)

10. 講習会、講演会及びセミナーの開催

(1) 講習会 (敬称略)

事業委員会 (坂本慎一委員長) が今年度を実施した講習会及び技術セミナーは以下のとお
りである。

ア. 「音源定位と音源分離の基礎」(第114回技術講習会)

期 日; 2011年6月9日~10日 会場; 全国家電会館

講 師; 浅野 太 (産業技術総合研究所)

受講者数; 35名

- イ.「道路交通騒音の予測モデル“ASJ RTN-Model 2008”と建設工事騒音の予測モデル“ASJ CN-Model 2007”」
(第19回音響技術セミナー)
期 日；2011年7月27日～29日 会場；東大生研
受講者数；40名
講 師；橘 秀樹(千葉工業大学), 坂本慎一(東京大学), 山本貢平(小林理学研究所),
押野康男(自動車研究所), 福島昭則(ニューズ環境設計),
田近輝俊(環境技術研究所), 藤本一壽(九州大学),
松本敏雄(小林理学研究所), 西ヶ谷忠明(日本建設機械化協会),
縄岡好人(大林組), 横田考俊(小林理学研究所)
- ウ.「スペクトル解析と情報計測の基礎」(第115回技術講習会)
期 日；2011年8月3日～4日 会場；全国家電会館
講 師；金井 浩(東北大学)
受講者数；17名
- エ.「音響・振動におけるFDTD法の基礎と応用」(第116回技術講習会)
期 日；2011年10月5日～6日 会場；東京大学生産技術研究所
講 師；坂本慎一(東京大学), 佐藤雅弘(富山大学), 土屋健伸(神奈川大学),
豊田政弘(関西大学)
受講者数；45名
- オ.「デジタル信号処理の基礎」(第117回技術講習会)
期 日；2011年11月10日～11日 会場；東京電機大学神田キャンパス
講 師；金田 豊(東京電機大学)
受講者数；36名
- カ.「強力超音波の基礎と応用」(第118回技術講習会)
期 日；2011年11月15日 会場；全国家電会館
講 師；中村健太郎(東京工業大学), 渡辺裕二(拓殖大学)
受講者数；37名
- キ.「音の心理学的測定法講座」(第119回技術講習会)
期 日；2011年11月24日～25日 会場；東京大学生産技術研究所
講 師；難波精一郎(大阪大学名誉教授), 桑野園子(大阪大学名誉教授),
宮岡 徹(静岡理工科大学), 川村 智(産業技術総合研究所)
受講者数；41名

(2) サマーセミナー(敬称略)
今年度は中止した。

(3) ビギナーズセミナー(敬称略)

ビギナーズセミナー実行委員会(大川茂樹委員長)で初学者を対象にビギナーズセミナーを開催した。2011年春季研究発表会では,“新刊『音響学入門』のマルチメディアコンテンツを体験する”をテーマとして,新人盛会と併催して実施した。2011年秋季研究発表会では,“新刊『音響学入門』によるチュートリアルレクチャー”をテーマとして開催した。

1 1. 特別企画の開催

2011年9月20日,松江総合文化センタープラバホールにおいて第27回特別企画「古い楽器も新しい楽器も楽しもう!～演奏とお話の夕べ～」を開催した。

1 2. 出版事業

出版委員会(鈴木陽一委員長)に属する3つの編集委員会,音響テクノロジーシリーズ編集委員会(正木信夫委員長),音響入門シリーズ編集委員会(鈴木陽一委員長),音響サイエンスシリーズ編集委員会(岩宮眞一郎委員長)において,それぞれ企画内容について審議し,出版した。なお,平成23年度の発行状況は以下の通りである。

ア. 音響入門シリーズ

- ・ 電気の回路と音の回路(音響入門シリーズ B-3)(2011/10/07 発行)

イ. 音響サイエンスシリーズ

- ・ 聴覚モデル(音響サイエンスシリーズ 3)(2011/08/30 発行)
- ・ 音楽はなぜ心に響くのかー音楽音響学と音楽を解き明かす諸科学ー(音響サイエンス)

- シリーズ 4) (2011/11/18 発行)
- ・ サイン音の科学 –メッセージを伝える音のデザイン論– (音響サイエンスシリーズ 5) (2012/03/28 発行)

1 3. 公益法人制度改革への対応

一般社団法人移行委員会 (松本敏雄委員長) において, 平成 23 年 11 月申請手続を実施, 内閣府公益等認定委員会事務局との数度にわたる連絡を経て, 平成 24 年 2 月に一般社団法人認可の答申が公表された。平成 24 年 4 月 1 日に登記手続を実施する。

1 4. 学会電子化推進に関する活動

電子化推進委員会 (大鶴 徹委員長) において, Web を利用した各種会員サービスについて検討した。今年度は, 学会ホームページ等の修正を目的として活動した。

1 5. 会勢拡大及び広報に関する活動

- (1) 会勢拡大委員会 (金井 浩委員長) において, 会勢の拡大につながる諸策を検討した。
- (2) 広報委員会 (武田一哉委員長) において, メーリングリストを利用した会員へのメールニュースを送付し, 会員への迅速な情報伝達を図った。
- (3) 活性化・若手育成委員会 (大川茂樹委員長) において, 学生フォーラムの活動について検討した。
- (4) 音響学に関連する基礎的であるが, 難解な原理, 事象について体験的に理解した過程等を解説的に説明する音響学入門ペディアの作成事業を実施する委員会を構成する等の準備を行った。

1 6. 財政改善に関する活動

財政改善委員会 (中村健太郎委員長) において, 賛助会員の増加策, 広告出稿企業の増加策について検討した。

1 7. 通常総会の開催

第 45 回通常総会は, 2011 年 5 月 12 日, 東工大蔵前会館において開催した。なお, 出席者は, 129 名 (うち委任状による出席 96 名) であった。

1 8. 理事会, 役員会並びに委員会活動

- (1) 理事会
平成 23 年度理事会は, 2011 年 4 月, 2012 年 2 月, 3 月の 3 回開催した。
- (2) 役員会
平成 23 年度役員会は, 2011 年 8 月を除く毎月, 計 11 回開催した。
- (3) 企画委員会
平成 23 年度企画委員会 (守谷健弘委員長) は, 毎月, 計 12 回開催した。
- (4) 編集委員会
平成 23 年度編集委員会 (伊藤彰則委員長) は, 2011 年 5 月, 7 月, 9 月, 11 月, 2012 年 1 月及び 3 月の計 6 回開催した。
- (5) 学術委員会
平成 23 年度学術委員会 (渡辺好章委員長) は, 2011 年 7 月, 9 月, 12 月, 2012 年 3 月の 4 回開催した。
- (6) 財政改善委員会
平成 23 年度財政改善委員会 (中村健太郎委員長) は, 2011 年 10 月, 11 月の 2 回開催した。

(7) 研究発表会準備委員会

平成23年度研究発表会準備委員会(小澤賢司委員長)は、2011年7月、9月、12月、2012年3月の4回開催した。なお、研究発表会プログラム編成委員会は、7月、12月の2回開催した。

(8) 国際渉外委員会

平成23年度国際渉外委員会(山田一郎委員長)は、2012年3月に開催した。

(9) 一般社団法人移行委員会(松本敏雄委員長)

一般社団法人の移行について、申請書類の作成、申請手続の確認等について審議、検討した。

19. 他学協会等からの共催等依頼

区分	件数	摘要
共催	2件	(一社)日本機械学会ほか
協賛	43件	(公社)計測自動制御学会ほか
後援	2件	(一社)日本オーディオ協会ほか
計	47件	

20. 支部所属会員

(1) 関西支部

会員種別	平成23年度			参考	
	2011. 4. 1 現在数(A)	2012. 3. 31 現在数(B)	年度内の増減 (B-A)	2011. 3. 31 現在数(C)	前年度末との 対比(B-C)
名誉会員	5	5	0	5	0
終身会員	9	9	0	8	1
正会員	542	519	△23	538	△19
学生会員	170	161	△9	174	△13

(2) 東北支部

会員種別	平成23年度			参考	
	2011. 4. 1 現在数(A)	2012. 3. 31 現在数(B)	年度内の増減 (B-A)	2011. 3. 31 現在数(C)	前年度末との 対比(B-C)
名誉会員	3	3	0	3	0
終身会員	5	5	0	5	0
正会員	156	150	△6	155	△5
学生会員	55	54	△1	53	1

(3) 東海支部

会員種別	平成23年度			参考	
	2011. 4. 1 現在数(A)	2012. 3. 31 現在数(B)	年度内の増減 (B-A)	2011. 3. 31 現在数(C)	前年度末との 対比(B-C)
名誉会員	1	1	0	1	0
終身会員	8	7	△1	7	0
正会員	296	289	△7	287	2
学生会員	67	78	11	69	9

(4) 九州支部

会員種別	平成23年度			参考	
	2011. 4. 1 現在数(A)	2012. 3. 31 現在数(B)	年度内の増減 (B-A)	2011. 3. 31 現在数(C)	前年度末との 対比(B-C)
名誉会員	0	0	0	0	0
終身会員	4	4	0	4	0
正会員	180	172	△8	177	△5
学生会員	64	61	△3	69	△8

(5) 北陸支部

会員種別	平成 23 年度			参 考	
	2011. 4. 1 現在数(A)	2012. 3. 31 現在数(B)	年度内の増減 (B-A)	2011. 3. 31 現在数(C)	前年度末との 対比(B-C)
名誉会員	0	0	0	0	0
終身会員	2	1	△1	2	△1
正 会 員	71	68	△3	71	△3
学生会員	40	44	4	43	1

2 1. 支部の事業

(1) 関 西 支 部

ア. 支部役員会

支部役員会は、2011年4月、8月、12月、2012年1月、3月の5回開催。

イ. 総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
支部総会	23. 4. 20	新橋ビル会議室	2010年度事業報告・決算報告 2011年度事業計画・予算書 出席者 182名(うち委任状 159) / 定足数 112名
見学会	23. 4. 20	住友金属工業(株)和歌山製鉄所	工場見学
音声研究会・電気音響研究会(共催)	23. 5. 12 ～ 13	立命館大学大阪キャンパス	発表件数 29 件 参加者(のべ) 130 名
聴覚研究会	23. 5. 13 ～ 14	同志社大学京	発表件数 15 件 参加者(のべ) 113 名
騒音・振動研究会	23. 7. 15	エルおおさか	発表件数 6 件 参加者 18 名
見学会	23. 10. 12	(財)阪急文化財団逸翁美術館、マグノリアホール	美術館、ホールの見学及びピアノ演奏会 参加者 49 名
動物音響談話会	23. 10. 15	同志社大学	講演 2 件 参加者 43 名
音楽音響研究会	23. 11. 19	同志社大学	発表件数 5 件 参加者 28 名
第 14 回若手研究者交流研究発表会	23. 12. 18	産業技術総合研究所関西センター	発表件数 83 件 参加者 160 名 ポスターセッション、講演会・懇親会
超音波研究会・電気音響研究会(併催)	24. 1. 26 ～ 27	関西大学	発表件数 27 件 参加者(のべ) 113 名

(2) 東 北 支 部

ア. 支部役員会

支部役員会は、2012年2月に開催。

イ. 総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
支部総会	23. 4. 20	—	東日本大震災の影響により、総会資料のメール配信により会員の了承を得る方法に換えた。
第 1089 回学術講演会	232. 7. 13	東北大学工学部	「新しい時代の新しいサービスのコンセプト-音声翻訳と組み込み音声認識システム-」 講師 畑岡信夫 氏(東北工業大学) 来聴者 250 名

第 1092 回学術講演会	23. 7. 21	東北大学工学部	「スプレー塗布法によるゾルゲル複合体及びその圧電応用」 講師 小林牧子氏(NRC) 来聴者 17 名
電気音響研究会・聴覚研究会	23. 8. 9 ～ 10	東北大学電気通信研究所	
電気関係学会東北支部連合大会	23. 8. 25 ～ 26	東北学院大学多賀城キャンパス	発表件数 312 件 参加者 612 名 (のべ) 特別講演「古代東北統治の拠点「多賀城」」 講師：進藤秋輝 氏(宮城県東北歴史博物館全館長) 来聴者 約 100 名
超音波研究会	23. 9. 26 ～ 27	東北大学工学部	
東北大学電気通信研究所一般公開 2011(後援)	23.10. 8 ～ 9	東北大学電気通信研究所	来聴者 1,976 名
騒音・振動研究会	23.10.21	東北文化学園大学	
第 1098 学術講演会	23.11.14	東北大学工学部	「 Intravasvular ultrasound: Assessment of atherosclerosis」 講師 Prof. A.F.W. van Steen(エラスムス大学)来聴者 50 名
アコースティックイメージング研究会	23.12. 9	東北大学工学部	
音声研究会	24. 2. 9 ～ 10	東北大学大学院	
平成 24 年東北地区若手研究者研究発表会(共催)	24. 3. 9	仙台高等専門学校広瀬キャンパス	「音・光・電波・エネルギー・システムとその応用」

ウ. 若手研究者優秀論文賞受賞者

九州支部が主催又は共催した若手研究者発表会、電気関係学会支部連合大会における若手研究者を対象として応募者を募り特に優れたものを表彰した。今年度の受賞者は 3 名であった。

(3) 東 海 支 部

ア. 支部役員会・支部幹事会

支部役員会は、2011 年 3 月、12 月に開催。支部幹事会は、2011 年 7 月に開催。

イ. 総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
支部総会	23. 3. 24	名城大学名古屋駅サテライト	参加者 18 名
支部講演会	23. 3. 24	名城大学名古屋駅サテライト	参加者 21 名
騒音・振動研究会(後援)	23. 5. 20	名城大学天白キャンパス	参加者 46 名 講演件数 7 件
東海地区音声関連研究室修士論文中間発表会(後援)	23. 8. 7	岐阜大学	参加者 158 名 講演件数 43 件
14 回認知神経心理学研究会	23. 9. 24 ～ 25	名古屋大学	参加者 86 名 講演件数 18 件
電気関係学会東海支部連合大会	23. 9. 26 ～ 27	三重大学	一般講演 672 件 (音響関係 23 件) シンポジウム 4 件 参加者 1123 名
見学会	23.10.29	本多電子(豊橋市)	参加者 36 名
聴覚研究会(後援)	23.11.25	豊橋技術科学大学	参加者 26 名 講演軒数 9 件

支部技術講習会	23. 11. 18	愛工大本山キャンパス	講演 4 件 参加者 27 名
2011 年度学生表彰式・祝賀会	23. 12. 21	ルブラ王山	出席者 18 名 (うち表彰学生 5 名)
電子情報通信学会専門講習会(協賛)	24. 3. 1	キャッスルプラザ	講演 5 件 参加者 56 名

(4) 九州支部

ア. 支部役員会

支部役員会は、2012 年 3 月に開催。

イ. 総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
建築音響研究会	23. 6. 21	別府国際コンベンションセンター	
騒音・振動研究会	23. 8. 22	長崎大学	
第 64 回電気関係学会球種支部連合大会	23. 9. 26 ～ 27	佐賀大学	講演申込 589 件 (うち音響・音声部門 17 件)
電気音響研究会	23. 11. 18 ～ 19	熊本大学	
音声研究会	23. 11. 28 ～ 29	九州大学筑紫キャンパス	
第 9 回学生のための発表会	23. 11. 26	大分大学	発表件数 35 件
聴覚研究会	23. 12. 10 ～ 11	熊本県立大学	
聴覚研究会	24. 2. 4 ～ 5	那覇市 IT 創造館	
騒音・振動研究会	24. 3. 9	琉球大学	
支部総会	24. 3. 24	長崎大学	出席者 72 名(うち委任状提出者 59 名)

ウ. 学生表彰

九州支部が主催又は共催した研究発表会、研究会における学生の発表を対象として応募者を募り特に優れたものを表彰した。今年度の受賞者は 4 名であった。

(5) 北陸支部

ア. 支部役員会

支部役員会は、2011 年 4 月、6 月、10 月、2012 年 1 月、3 月に開催。

イ. 総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
支部総会	23. 4. 16	金沢大サテライト・プラザ	出席者 33 名 (うち委任状提出者 12 名)
音楽音響研究会	23. 8. 6 ～ 7	金沢工業大学	講演 31 件 参加者 45 名
電気関係学会北陸支部連合大会	23. 9. 17 ～ 18	福井大学	音波・音響関係部門 招待講演 1 件 一般講演 24 件 優秀論文発表賞 4 件
聴覚研究会	23. 10. 1 ～ 2	富山市牛岳温泉リゾート	講演 17 件, 参加者 35 名 招待講演 1 件
講演・見学会	23. 11. 19	富山県立大学	講師 平原達也 氏 (富山県立大教授) 参加者 50 名
北陸地区学生による研究発表会	24. 3. 10	石川工業高等専門学校	音波・音響関係 講演 6 件 その他音声関係発表 4 件

第4回音響・超音波ジョイント研究会	23. 3. 14	金沢市サテライト・プラザ	発表6件 参加者23名
-------------------	-----------	--------------	----------------

ウ. 表彰

- ・平成24年2月, メール審議より優秀学生賞9名を決定した。

事業報告書の附属明細書

特に記載すべき重要な事項はありません。